

宿題をする中学生にアドバイスする高専生



呉高専生が先生役 阿賀中で 年代超えた交流狙う

呉市の呉高専生が先生役となり、中学生に夏休みの宿題を教える連携教育が二十四日、同市の阿賀中で始まった。四校間では初の試みで、年代を超えた交流が狙い。高専生十四人が国語、英語、数学の科目別に三教室に分かれ、三年生計四十人に宿題を教えた。最初は戸惑っていた高専生も質問を受けると、生徒の隣に座って真剣に答えていた。

図形の問題を教えても

らった阿賀利藤治君(18)も、自信がなくなった。は「教え方が上手で、真と善くいた。今回の連携教育は、同中の竹上和徳校長(56)が高専側を呼び掛けて実現したのは初めて、うまくいった。市坪誠助教授(56)

は「九月中には近隣の小学校や高校にも働きかけ、授業以外のクラブ活動などでも連携したい」と話している。

中国新聞

2005 / 08 / 26